

三校合同課題研究発表会

12月18日(日)、高岡文化ホールにおいて、三校(富山・富山中部・高岡)の探究科学科2年生による課題研究発表会が行われました。その様子を紹介します。

令和4年度の「探究科学科三校合同課題研究発表会」が、12月18日(日)、高岡文化ホールで開催されました。県内三校の探究科学科1・2年生、関係する教員、教育関係者に加え、約600名が一堂に会し会場は熱気に包まれていました。

開会式では、実行委員長(高岡高校)の開会挨拶の後、各校代表の発表が行われました。富山高校「富山って意外とすごいらしいよ」富山の独自性とまちづくり」「富山中部高校「富山市の電力網とグラフ理論」安全性と効率性」「高岡高校「射的無双」最も遠くに飛ばすには」が各校を代表してステージ発表を行いました。本校代表の人文社会科学科地公2班は、現在の富山市の諸問題への対応策としてのコンパクトシティ政策に着目しました。他の都市と比較して政策としての評価も高いことから、施策が成功した要因のうち富山市に独自のもの①ライトレール、②マンション補助、に焦点をあて、考察を加え発表しました。苦労話を交えながら、図や写真を多く用い、わかりやすく伝える工夫も見受けられました。発表に対する質問もたいへん多く、会場は大いに盛り上がりました。

開会式後は、各班が文化ホールの1・2・3階に分かれ、これまでに取り組んできた課題研究に関するポスターセッションを行いました。ポスターの内容や説明方法に工夫を凝らし、それぞれの発表について、活発な意見交換が行われました。



写真：富山高校の代表発表



写真：ステージ上での実演

「質問されたことで、改めて自分たちの研究を振り返って客観的に考察できました」「自らの思考力やプレゼン能力を伸ばすことができました」「多くの皆さんの前でポスターセッションを行う事は、緊張したがとてもよい経験になりました」といった感想が聞かれました。しかし、「声が小さく聞き取りにくかった」「ポスターの文字が細かい字で多く書いてあり、見る気になれなかった」などの改善点も指摘されました。多くの方々からの指摘やアドバイスは参加した生徒に参考になった面が多々ありました。

また、他の二校の探究科学科の生徒からの質問を受けることは、文化活動発表会での質問以上に受ける側としては緊張感を伴うものでした。また他の高校の発表を見ることもそこから学ぶべきことが多く、他校の生徒から大きな刺激を受けていました。

探究活動(三校合同発表会)を終えて

2年生

① 吉岡 由真さん

「苦」。探究活動を漢字一字で表すとしたら、私はこの漢字を選びます。決まらないテーマ、終わりの見えない実験、まとまらない話し合い。すべての過程において「苦戦」する場面がたくさんありました。この苦しい時間を乗り越え、探究活動を進めてくれたのは班のみんなと支えてくださった先生方がいたからです。特に、先生方の知識量や知識の深さには驚かされることが多く、学びを

自分のものにするとはこういうことを言うのだなと気づかされました。探究活動を通して私たちが調べたことや実験したことを自分のものにできたように感じます。

② 飯里 実久さん

三校合同発表会に辿り着くまでには様々な困難があった。まず、「コンパクトシティ」から考察していける要素が多すぎて、研究テーマに対する考えの方向性を合わせることに苦労した。これをクリアした後、有効活用し、論理が飛躍しないようにするか「初めて発表を見る人にも、研究の流れをわかりやすく伝えるにはどうすればいいか」などに頭を悩ませ続けてきた。ではなかったと思う。発表会では、質問に対してできる限りの回答ができたと思ってるし、多くの人と討論ができて、昨年とは比べ物にならないくらい充実した時間を過ごせたとも感じている。探究活動を通して、根拠を集めることの大切さや、批判的思考力の大切さを痛感した。身につけた力を今後にも活かせよう努力していきたい。



写真：ポスターセッション



写真：ポスターセッション



写真：ポスターセッション



写真：ポスターセッション